

(別表1)

事業継続力強化支援計画

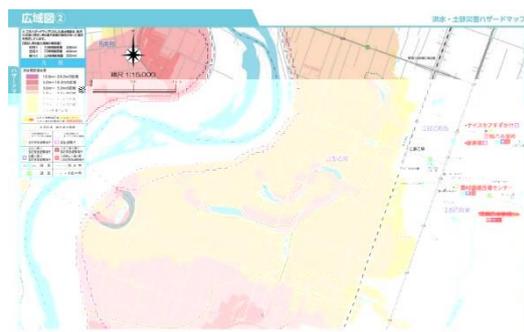
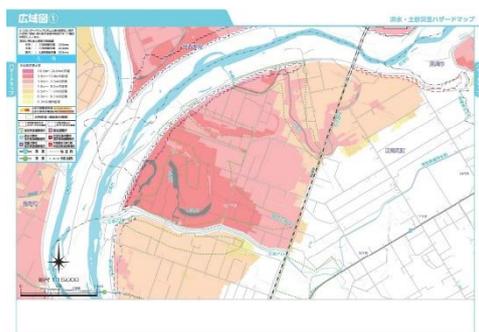
事業継続力強化支援事業の目標

1 現状

(1) 地域の災害リスク

(洪水：滝川市防災ハザードマップ)

滝川市江部乙町の西側には国内有数の一級河川である石狩川が流れており、当該河川が氾濫した場合の浸水想定区域は、滝川市防災ハザードマップによると、JR 函館本線の東側の住宅地等の一部及び西側の田畑の農地の大部分が0.5～10mの浸水域とされている。



(出典：滝川市ハザードマップ)

(土砂災害：北海道土砂災害警戒情報システム)

北海道土砂災害警戒情報システムによると、江部乙町で土石流による土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定されている区域はない。

(地震：地震調査研究推進本部・J-SHIS)

江部乙町において懸念される地震被害の可能性については、地震調査研究推進本部の資料から7個の断層帯による地震の想定が示されており、そのうち最も影響が大きいと考えられるのは「増毛山地東縁断層帯」と「沼田-砂川付近の断層帯」によるもので、震度6強の発生確率は0.6%以下となっている。地震ハザードステーションの防災地図によると、江部乙町は今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる地震の発生確立が2.6%以下となっている。

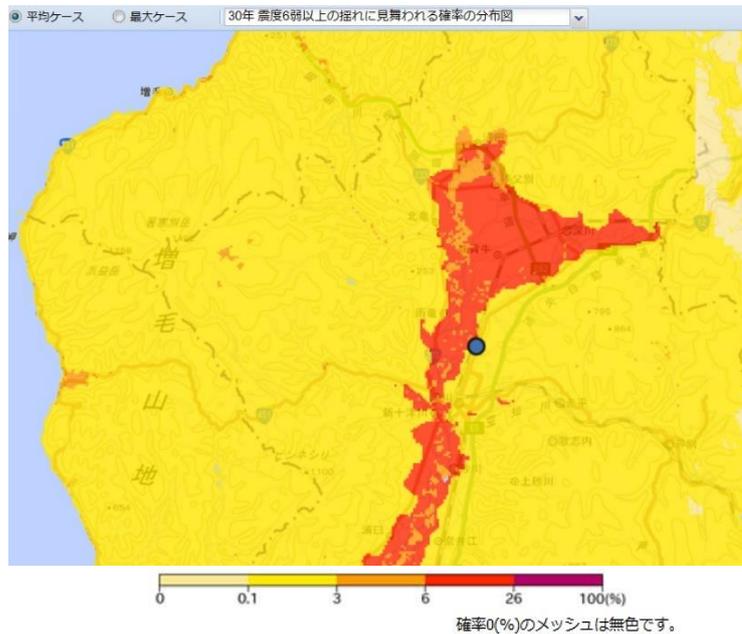
また、平成30年の胆振東部地震の際には江部乙町内でもブラックアウトが発生し、電力が復旧するまで商品の廃棄や物流が途絶えた影響などにより、売上が減少する商工業者があった。

地 震		マグニチュード	地震発生確率 (30年以内)
十勝平野断層帯	主部	8.0程度	0.1%～0.2%
	光地園断層	7.2程度	0.1%～0.4%
富良野断層帯	西部	7.2程度	ほぼ0%～0.03%
	東部	7.2程度	ほぼ0%～0.01%
増毛山地東縁断層帯・ 沼田-砂川付近の 断層帯	増毛山地東縁断層帯	7.8程度	0.6%以下
	沼田-砂川付近の 断層帯	7.5程度	不明
当別断層		7.0程度	ほぼ0%～2%
石狩低地東縁断層帯	主部	7.9程度	ほぼ0%
	南部	7.7程度以上	0.2%以下
サロベツ断層帯		7.6程度	4%以下

(出典：地震調査研究推進本部)



(出典：滝川市地域防災計画)



(出典：地震ハザードステーション)

(その他)

当地域の気象特性からこれまでも雪や風による被害が発生した事例があり、特に雪については年ごとのばらつきはあるものの、多い年では年間10m以上の降雪量を記録するところもある豪雪地帯であり、交通障害の発生のほか高齢者による自宅の屋根の雪下ろし作業の際の落下事故といった住民の生命に関わる事案なども発生している。

全国各地で見られる昨今の温暖化や異常気象といった要因からもたらされる大規模災害の発生状況を鑑み、当町においても自然災害に対する備えが重要である。

(感染症)

新型コロナウイルス・新型インフルエンザをはじめとした各種感染症は、今後の影響が予想できないものもあり、大きな健康被害とこれに伴う社会的影響をもたらすことが懸念されている。

(2) 商工業者の状況

- ・ 商工業者数 131人 (独自データ)
- ・ 小規模事業者数 123人 (独自データ) (令和5年4月1日現在)

業種		商工業者数	小規模事業者数	備考
商工業者	建設業	33	33	町内に広く分散
	製造業	6	6	〃
	卸売業	5	3	〃
	小売業	26	22	市街地に集中
	飲食業	7	6	町内に広く分散
	サービス業・その他	54	53	町内に広く分散

(3) これまでの取組

1) 当市の取組

項目	年月	備考
滝川市防災会議条例	S46.4 制定	
滝川市地域防災計画	R5.3 改訂	
防災訓練の実施	適宜開催	町内会をはじめ各種団体、学校等を対象として、講話及び避難所開設訓練等を随時開催
	R3～	消防機関や近隣市町との連携下で人材育成研修事業等の実施（重機操作研修ほか）
市民防災ボランティアの育成	R4～	滝川市防災サポーター登録制度を創設し、研修等を通じてボランティアによる軽作業等のサポート体制の構築
防災備品の備蓄	—	各種防災資機材の購入、食料及び飲料水（いずれも長期保存可）のストック推進
新型インフルエンザ等対策行動計画の策定	H26.8	

2) 当商工会の取組

項目	年月	備考
BCP策定支援力強化研修会	H30.6	支援担当者が出席
火災共済の周知・加入促進	随時	商工会窓口にて受付・対応
新型コロナウイルス感染症対策支援制度等の周知	R2.2～	商工会報記事掲載、巡回指導等にて周知

2 課題

- ・緊急時の取組についての定めが漠然としており、協力体制の重要性について具体的な体制やマニュアルが整備されていない。
- ・実施推進体制の構築及び責任者の強いリーダーシップの下での推進が必要となるが、ノウハウをもった人員が十分にいない。
- ・支援計画の考え方や内容が職員間で浸透するための訓練や教育が行われていない。
- ・感染拡大時に備え地区内小規模事業者に対する予防接種の推奨、手洗いの徹底などの具体的な感染症対策の周知が十分になされていない。

3 目標

- ・地区内小規模事業者に対し自然災害リスクや感染症等リスクを認識させ、事業継続力強化計画策定の必要性を周知する。
- ・発災時における連絡体制を円滑に行うため、当商工会と当市との間における被害情報報告ルートを構築する。
- ・発災後速やかな復興支援策が行えるよう、また、域内において感染症発生時には速やかに拡大防止措置を行えるよう、組織内における体制、関係機関との連携体制を平時から構築する。

・成果目標

業種	商工業者数 (独自データ)	小規模事業者数 (独自データ)	策定目標 (事業継続力強化計画)				
			R6	R7	R8	R9	R10
建設業	33	33	2	1	2	1	2
製造業	6	6	1	0	1	0	1
卸売業	5	3	0	1	0	1	0
小売業	26	22	1	2	1	2	1
飲食業	7	6	0	1	0	1	0
サービス業・その他	54	53	3	3	3	3	3
合計	131	123	7	8	7	8	7

※策定目標については、商工会における人員体制を考慮したうえで、概ね3期15年で地域の全小規模事業者が事業継続力強化計画を策定することを目指す。なお、今期は30%を目標とし、2期目には計画策定事業者を70%にすることを目標とする。

・実施目標

項目	目的	目標	
事前対策の必要性を周知	地区内小規模事業者に対し災害リスク・感染症等リスクを認識させるとともに、事前対策としての計画策定の重要性を認識させる	セミナー開催	年1回
計画策定の支援に向けた内部協議	事業継続力強化計画策定希望事業者へ円滑に支援するため職員間の連携と意思疎通を図る	職員会議及び勉強会の開催	年1回
保険・共済普及に向けた体制づくり	保険・共済に対する助言・加入手続きを行うための職員の育成と連携を図る	職員会議及び勉強会の開催	年1回
連携体制の推進	組織内や関係機関と発災後・感染症発生時に速やかな復興支援策が行える体制の構築	連携会議開催	年1回

4 その他

- ・経営発達支援計画評価委員会に合わせて事業継続力強化支援計画連携会議を年1回開催し、事業に対する評価及び状況や環境の変化による計画の見直しを行う。
- ・上記内容に変更が生じた場合は、速やかに北海道経済部中小企業課へ報告する。

事業継続力強化支援事業の内容及び実施期間

5 事業継続力強化支援事業の実施期間（令和6年4月1日～令和11年3月31日）

6 事業継続力強化支援事業の内容

- ・当商工会と当市の役割分担及び体制を整理し、連携して以下の事業を実施する。

滝川市	江部乙商工会
防災関連の情報提供	セミナー・個別相談会の開催事業
事業継続力強化計画策定に係る 助言・指導	継続力強化計画策定支援・ フォローアップ
災害等リスクの周知	
関係団体との連携	
防災訓練の実施	
応急対策時の対策及び復旧支援	

(1) 事前の対策

- ・事業継続力強化支援計画を商工会と行政が共有することにより、自然災害発災時や感染症発生時に混乱なく応急対策等に取り組めるようにする。
- ・日常的に災害の発生に備える意識を高め、自ら防災対策を実施するとともに、商工会内部における職員会議及び勉強会の開催により、職員間の情報共有並びに連携を図る。

ア. 小規模事業者に対する災害等リスクの周知

- ・巡回経営指導及び窓口相談業務の際、過去における災害記録やハザードマップ等を用いながら、事業所の現状と災害等のリスク及びその影響を軽減するための取組や対策の重要性について説明を行う。
- ・商工会が発行する会報やホームページ、各会合等において本計画を公表するほか、「事業継続力強化計画」の重要性や、策定した際の支援措置などの紹介を行う。
- ・事業継続力強化の取組に関する専門家を招き、小規模事業者に対する普及啓発セミナーを実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症は、いつでも、どこでも発生する可能性があり、感染の状況も日々変化するため、事業者には常に最新の正しい情報を入手し、デマに惑わされることなく、冷静に対応することを周知する。
- ・新型コロナウイルス感染症に関しては、新型インフルエンザ等対策ガイドラインに基づき、感染症拡大防止策等について事業者への周知を行うとともに、今後の感染症対策につながる支援を実施する。
- ・事業者へ、マスクや消毒液等の一定量の備蓄、オフィス内換気設備の設置、ITやテレワーク環境を整備するための情報や支援策等を提供する。

イ. 商工会自身の事業継続計画の作成

- ・当商工会は、令和7年3月までに事業継続計画を策定予定

ウ. 関係団体等との連携

- ・損害保険株式会社に専門家の派遣を依頼し、地区内小規模事業者を対象とした普及啓発セミナーや保険内容の紹介等を実施する。
- ・感染症に関しては、収束時期が予測しづらいこともあり、リスクファイナンス対策として各種保険（生命保険や傷害保険、感染症特約付き休業補償など）の紹介等も実施する。
- ・関係機関への普及啓発ポスターの掲示、セミナー等の共催依頼を行う。

エ. フォローアップ

- ・小規模事業者の事業継続力強化計画等の取組状況の確認（年1回実施）

業種	商工業者数 (独自データ)	小規模事業者数 (経済センサス)	策定件数					フォローアップ回数				
			R6	R7	R8	R9	R10	R6	R7	R8	R9	R10
建設業	33	33	2	1	2	1	2	2	1	2	1	2
製造業	6	6	1	0	1	0	1	1	0	1	0	1
卸売業	5	3	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0
小売業	26	22	1	2	1	2	1	1	2	1	2	1
飲食業	7	6	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0
サービス業・その他	54	53	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計	131	123	7	8	7	8	7	7	8	7	8	7

- ・滝川市、商工会並びに関係機関を交えた事業継続力強化支援計画連携会議において、状況確認や改善点等について年1回協議し、本計画に記載した事業の実施状況及び評価検証を行う。また、評価結果はHPへ掲載することで地域の小規模事業者等が常に閲覧可能な状態とする。

オ. 当該計画に係る訓練の実施

- ・自然災害（震度6弱の地震）が発生したと仮定し、当町地域防災計画を基に連絡ルート等の確認を行う。

実施時期	商工会館防災訓練と合わせて年1回実施
訓練内容	発災後の連絡手段等の確認 発災後の指示命令系統・連絡体制の確認
訓練連携先	滝川市産業振興部産業振興課 滝川市江部乙支所

カ. 発災時における被害報告基準について

- ・被害認定基準及び被害額（合計、建物、設備、商品等）の算定方法については、あらかじめ当市産業振興部産業振興課と協議し、策定する。

(2) 発災後の対策

- ・自然災害等による発災時には、自身の安全確保、人命救助を第一とする。そのうえで、次の手順で地区内の被害状況を把握し、関係機関と連携した行動に繋げる。

ア. 応急対策の実施可否の確認

- ・発災後3時間以内に携帯電話等を活用して職員とその家族の安否確認を行う。
連絡方法の優先順位 ①電話 ②メール（ショートメール・Eメール等）
③SNS（LINE・メッセージ）
- ・安否確認後、近隣の大まかな被害状況、業務従事の可否についてSNSのグループ機能等を活用し、情報の共有を行う。
- ・地域内感染者発生後には、職員の体調確認を行うとともに、事業所の消毒、職員の手洗い・うがい等の徹底を行う。
- ・管轄保健所による指導や新型インフルエンザ等対策特別措置法による、北海道知事や滝川市からの感染防止に必要な協力要請に基づき、当会による感染対策を行う。

イ. 応急対策の方針決定

- ・滝川市災害対策本部の方針に従い、当市産業振興課と連携をとり実施に向けた役割分担・スケジュールの作成を行う。また、職員自身の目視で命の危険を感じる自然災害等の状況の場合は出勤せず、まず自身の安全を確保し、安全確保がされた後に出勤する。

- ・ 配備体制及び被害規模の目安は下記を想定する。

種別	配備の時期	配備要員
出動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域にわたる災害の発生が予想される場合、若しくは被害が甚大であると予想される場合 ・ 市内に震度6弱以上の地震が発生したとき ・ 予想されない重大な災害が発生したとき ・ 気象特別警報が発表されたとき 	全職員
警戒	<ul style="list-style-type: none"> ・ 局地的な災害の発生が予想される時又は災害が発生したとき ・ 市内に震度5弱又は5強の地震が発生したとき 	事務局長 経営指導員
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象業務法に基づく気象に関する防災気象情報が発令され、災害の発生が予想される時 ・ 市内に震度4の地震が発生したとき 	事務局長 経営指導員

- ・ 本計画により、当商工会と当市は、被害状況等を下記により共有する。

発災後～1週間	1日に3回共有する
1週間～2週間	1日に2回共有する
2週間～4週間	1日に1回共有する
1ヶ月以降	2日に1回共有する

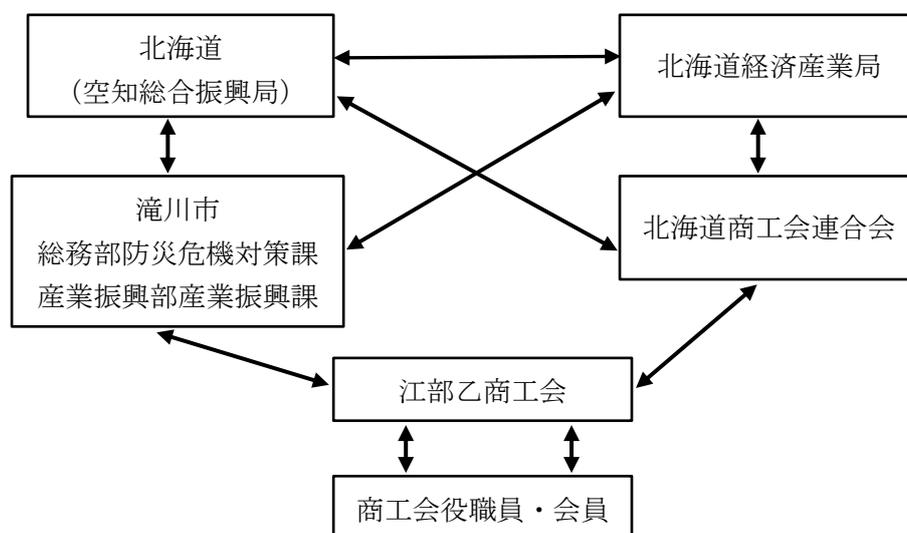
- ・ 当市で取りまとめた「滝川市新型インフルエンザ等対策行動計画」を踏まえ、必要な情報の把握と発信を行うとともに、交代勤務を導入する等体制維持に向けた対策を実施する。

3) 発災時における指示命令系統・連絡体制

- ・ 自然災害等発生時に、被害を最小限に防止するため迅速かつ強力な指示命令系統・連絡体制を構築する。
- ・ 二次災害発生への恐れのある個所に対して、情報を共有し報告体制を整備することで発生防止措置に繋げる。
- ・ 当商工会は原則、被害状況確認報告書にて、メールまたはFAX等により情報共有又は報告を行う。
- ・ 被害額（合計、建物、設備、商品等）の算定については、あらかじめ市と定めた方法により確認する。
- ・ 当商工会と当市が共有した情報について、北海道の災害情報報告取扱要領に基づき指定する方法にて、空知総合振興局及び北海道商工会連合会に報告する。
- ・ 被害状況確認報告書様式

事業所名	住所	業種	被害額	被害状況（建物・機械設備・商品など詳細に記載）
1				
2				
3				

・災害情報等報告取扱要領の報告方法



(4) 応急対策時の地区内小規模事業者に対する支援

- ・地区内小規模事業者等の被害状況について、あらかじめ市と定めた方法により確認する。
- ・相談窓口の開設について当市と相談し、安全性が確認された場所に設置する。
- ・被災事業者を対象にした補助制度等の施策について、地区内小規模事業者等へ周知する。
- ・損害保険、各種給付金や補助制度等の申請手続きの支援を行う。
- ・感染症の場合、事業活動に影響を受ける、またはその恐れがある小規模事業者を対象とした支援策や相談窓口の開設等を行う。

(5) 地区内小規模事業者に対する復興支援

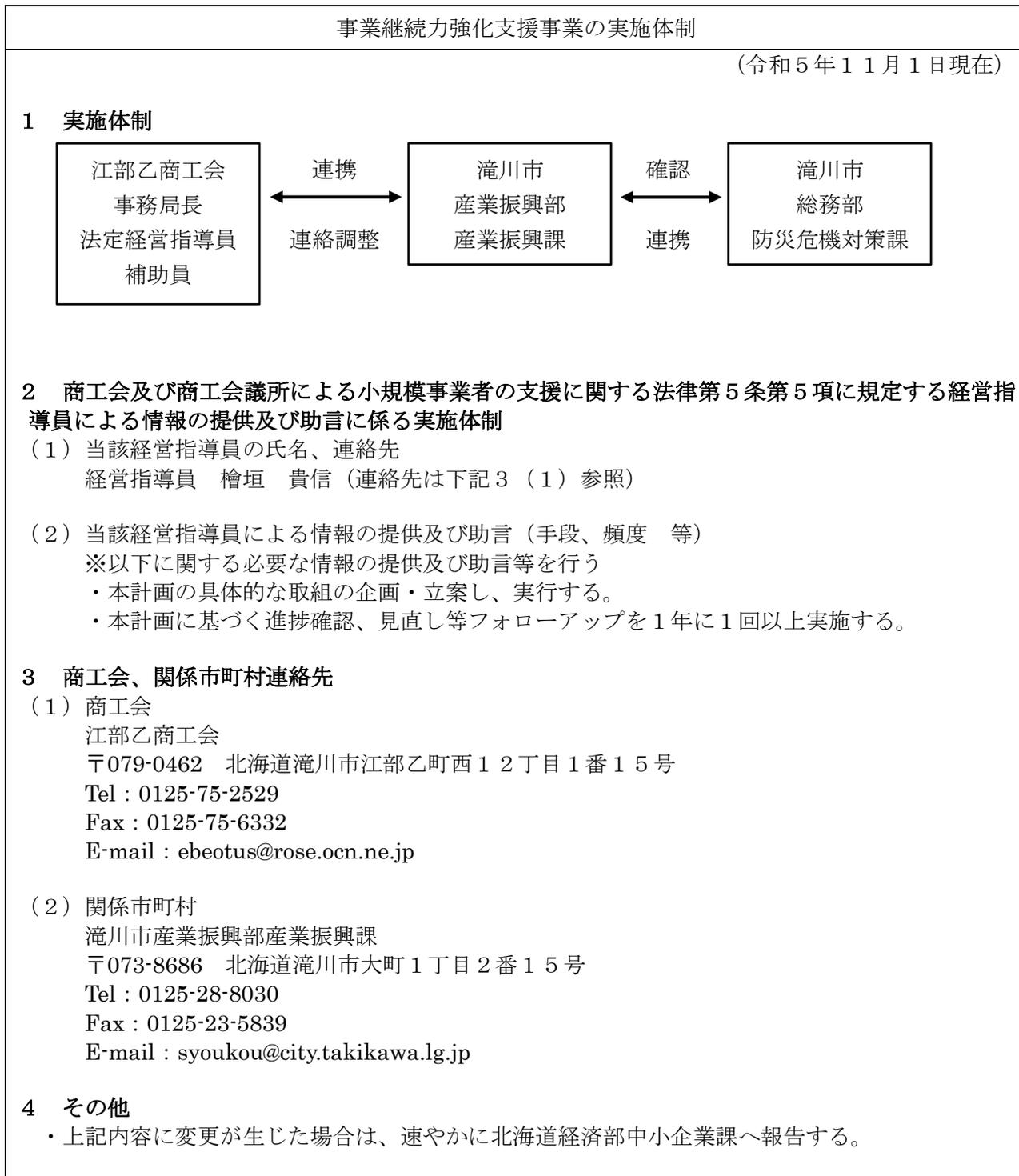
- ・滝川市の方針に従って復旧・復興支援の方針を決め、被災小規模事業者に対し支援を実施する。
- ・被害規模が大きく、被災地の職員だけでは対応が困難な場合には、他の地域からの応援派遣等を北海道や北海道商工会連合会に相談する。

(6) その他

- ・本計画は、滝川市・江部乙商工会のHP及び広報誌や各会合等において公表し、支援小規模事業者に対する防災・減災対策についての周知を広く行うこととする。
- ・本計画内容に変更が生じた場合は、速やかに北海道経済部中小企業課へ報告する。

(別表2)

事業継続力強化支援事業の実施体制



(別表3)

事業継続力強化支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
必要な資金の額	100	70	70	70	70
・ 専門家派遣費	30	30	30	30	30
・ セミナー開催費	10	10	10	10	10
・ パンプ、チラシ作成費	30				
・ 防災、感染症対策費	30	30	30	30	30

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費収入、滝川市補助金、道補助金、事業収入等